

新フェリー「きずな」就航 1日から運賃2割引きに 吉岐・対馬・博多間に九州郵船



郷ノ浦港発の第1便に1番で乗るため早朝5時から、祖母らと並んだ石田町久喜、山川尚大くん(7つ)と福岡から遊びに来ていた親戚の平田涼雅くん(同)は「とっても楽しみにしていただきました!」と元気に話していた。

また、リブレイス事業により、今月からフェリー、高速船の基本運賃の2割引き下げがスタート、吉岐・博多間の主な運賃は次の通りで、車両は従来通り。

【フェリー】(片道)▽1等 大人2880円、子ども1440円▽2等指定制 大人2480円、子ども1240円▽2等・大人2080円、子ども1040円、離島往復割 大人3590円、子ども1800円▽学割・1700円

【高速船】(片道)▽大人4080円▽子ども2040円▽学割・1700円

【高速船】(片道)▽大人4080円▽子ども2040円▽学割・1700円



フェリーニューつしまの"退役"セレモニー

吉岐新報創刊のご挨拶

拜啓 春陽の候、皆様におかれましてはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。さて、皆様にご心配をおかけしておりましたが、お陰様でこの度吉岐新報第一号を創刊することができました。これも皆様のご支援とご協力の賜物と心より感謝する次第であります。今はインターネットの時代ではありませんが、まだまだ新聞の役割は大きくその必要性は軽視できません。本紙は今後の第2号、3号と毎回の発行で、ニュースを偏向せずにご伝え、皆様の毎日に添うような、心と笑顔が広がる新聞づくりにスタッフ一同邁進してまいりますので、ご指導ご鞭撻、併せてご購読のほど、よろしくお願い申し上げます。

平成24年4月13日
吉岐新報社 同

新しい椅子①

吉岐警察署長 永峯一宏警視



約27億円で建造された、船名のコンセプトは「人と人、心と心、島と島を結ぶ」。きずなの規模は▽全長94・6m▽幅14・8m▽航海速度18ノット以上▽旅客定員678人▽車両積載台数(乗用車換算)67台などとなっており、エレベーター、多目的トイレなど障害のある人にも利用しやすいようにバリアフリー化された設備を備えている。

また、リブレイス事業により、今月からフェリー、高速船の基本運賃の2割引き下げがスタート、吉岐・博多間の主な運賃は次の通りで、車両は従来通り。

【フェリー】(片道)▽1等 大人2880円、子ども1440円▽2等指定制 大人2480円、子ども1240円▽2等・大人2080円、子ども1040円、離島往復割 大人3590円、子ども1800円▽学割・1700円

【高速船】(片道)▽大人4080円▽子ども2040円▽学割・1700円

【高速船】(片道)▽大人4080円▽子ども2040円▽学割・1700円

【高速船】(片道)▽大人4080円▽子ども2040円▽学割・1700円

お詫び

3月26日で廃刊となった吉岐日報最終号で、本紙のこの創刊号を、読者の皆様にお届けする準備を進めてまいりましたが、顧客、個人情報に関する問題が生じる可能性があることがわかったため、読者の皆様には大変ご迷惑をおかけすることとなりましたが、取りやめることとなりました。心よりお詫び申し上げます。

今後とも吉岐新報をお引き立てご購読いただけますようよろしくお願い申し上げます。

風がやんだら 沖まで船を出そう

吉岐署の新署長は、荒井(現在、松任谷)由美さんの作詞・作曲の大ヒット曲「瞳を閉じて」が校歌の高校があること有名な五島・奈留島出身で、その校歌を高

校の卒業式で歌ったという長峯一宏警視。薬物、銃器、暴力対策など、県警本部刑事部・組織犯罪対策課の次席調査官からの着任。これまで警察官として、昭和55年の機動隊への配属を振り出しに33年間、殺人事件や強盗事件など様々な事件を経験してきたが、2009人が犠牲になった長崎大水害(昭和57年)は、救助を求める市民に対応するための無縁なパニック状態になり、まさに生死をかける」という言葉通り、今でも忘れることはないという。

吉岐は16年前、家族で旅行して以来、島育ちのせいかわからないが、何か落ち着いていて懐かしいという。

追力ある鋭い眼光と人懐っこい笑顔とのギャップが何とも素敵な新署長。51歳

【高速船】(片道)▽大人4080円▽子ども2040円▽学割・1700円

【高速船】(片道)▽大人4080円▽子ども2040円▽学割・1700円

【高速船】(片道)▽大人4080円▽子ども2040円▽学割・1700円

お詫び

3月26日で廃刊となった吉岐日報最終号で、本紙のこの創刊号を、読者の皆様にお届けする準備を進めてまいりましたが、顧客、個人情報に関する問題が生じる可能性があることがわかったため、読者の皆様には大変ご迷惑をおかけすることとなりましたが、取りやめることとなりました。心よりお詫び申し上げます。

今後とも吉岐新報をお引き立てご購読いただけますようよろしくお願い申し上げます。

*吉岐新報のお申込み、問い合わせなどは「吉岐新報社」まで
吉岐市郷ノ浦町片原触 247-7 電話・FAX 0920-47-3196
Eメール ikishinpou@oboe.ocn.ne.jp

弥生集落 三大遺跡展



20日から一支国博物館 芦辺町、一支国博物館主催の第9回特別企画展「弥生集落三大遺跡展」が20日から、同博物館1階テマ展示室で、6月24日まで約2か月間開催される。同三大遺跡展では、国

宝にあたる国特別史跡にしていざされてる登呂(静岡)、吉野ヶ里(佐賀)、原の辻(吉岐)の3遺跡について、象徴的な出土品を一堂に展示し、それぞれの遺跡の特性や特徴をわかりやすく紹介し、併せて弥生時代の国史跡についてもパネル展示で紹介する。観覧料は大人のみ200円。

【高速船】(片道)▽大人4080円▽子ども2040円▽学割・1700円

【高速船】(片道)▽大人4080円▽子ども2040円▽学割・1700円

再出発はインドネシアで 九郵フェリー・ニューつしま

吉岐・対馬・博多間の航路に1日から、九州郵船の新しいフェリー「きずな」が就航した。この就航に伴い、平成元年7月からの同航路で活躍してきた同社のフェリー「ニューつしま」(総トン数1776ト、定員839人、乗用車換算による車両搭載台数64台)が昨年度末で、船体の老朽化のために「退

役」することになり、先月31日夜、ニューつしまが芦辺港に到着するのを待って、ターミナルビルでその運航に感謝するセレモニーが行われた。同フェリーは、およそ24年間の航海で500万人を超える乗客を運んだ。同船はこの後、インドネシアで再出発を果たすという。

松見学芸員の講演も 地域婦人会連絡協議会・総会

地域婦人会連絡協議会(久間初子会長)の本年度総会が14日午後7時から2時間、郷ノ浦町、文化ホール・中ホールで、各地区婦人会の正副会長を対象に開かれる。

当日は、昨年度の事業報告や会計報告、本年度の事業計画案や予算案など審議することになっており、総会後は、研修会講演として、市文化財課・松見裕二氏から「松見裕二の歴史」について講演がある。

当日は市内で教室を開きダンスとしても活躍する米田成美も出演する。チケットは前売り3000円、当日3500円。1、2部通し5500円。



島のゆりかご

吉岐の島はゆりかごのよう。海や風が揺らし、生命のうねりが生まれ、育ち、そして果立つ。

また、もぐって新しい生命が生まれ育まれる。大いなる循環のサイクルの中で、小さなゆりかご。

風の眼

吉岐の島は風が強いところ。転動されてきた方が驚いた顔になる。

なにしろ春一番の島です。風の島にようこそと言おうと思わずにつこりとさる。風の中で話をしているとビーヒョロロと鳥のよ。神の使いの鳥なのか。「おーい、何が見える?」 次の新しい風が吹いたら目も光るだろう。若葉が生まれていく。

お詫び

3月26日で廃刊となった吉岐日報最終号で、本紙のこの創刊号を、読者の皆様にお届けする準備を進めてまいりましたが、顧客、個人情報に関する問題が生じる可能性があることがわかったため、読者の皆様には大変ご迷惑をおかけすることとなりましたが、取りやめることとなりました。心よりお詫び申し上げます。

今後とも吉岐新報をお引き立てご購読いただけますようよろしくお願い申し上げます。

